

フィロソーマ幼生

イセエビ科やセミアエビ科のエビは、親と子で全く違う姿をしています。

イセエビやセミアエビの仲間は高級食材として有名ですが、生まれた時にどんな姿をしているかをみたことがある人は少ないでしょう。彼らは、子供の時は、親とは全く異なる姿をしています。

イセエビやセミアエビの幼生はフィロソーマ幼生と呼ばれ、まるでクモのような姿です。孵化したばかりの大きさは1cm程度ですが、この姿のまま何回も脱皮して、約一年もの間水中を漂うプランクトン生活を続け、3cm程度にまで成長します。

そして一年ほど経つと、フィロソーマ幼生はプエルルス幼生になります。このプエルルス幼生は透明ではあるものの、親とそっくりの姿をしています(ガラスエビとも呼ばれます)。彼らは一回の脱皮で完全に姿を変えてしまうのです。

フィロソーマ幼生が最初に発見されたのは19世紀ですが、あまりに親と異なる姿だったため、当時は新種のエビだと考えられたそうです。

フィロソーマ幼生の時期があるエビの例



イセエビ



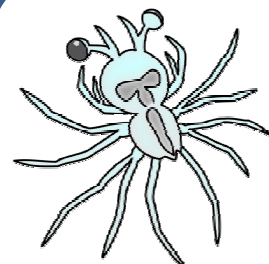
セミアエビ



オオバウチワエビ



オオバウチワエビのフィロソーマ幼生



フィロソーマ幼生
(一年後の大きさは約3cm)

フィロソーマ幼生は約一年かけて30回ほど脱皮するが、その間姿はほとんど変化しない



プエルルス幼生
(大きさは約2cm)

しかし、その後たった一回の脱皮で完全に姿をかえ、親とそっくりの姿をしたプエルルス幼生になる